

関係委員意見聴取書面	
関係委員 (敬称略)	(所属) 国立大学法人 新潟大学 農学部農学科 教授
	(氏名) 関島 恒夫
聴取日	令和4年12月15日(木)
聴取者	環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 與那原 審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 犬田 審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 新田 審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 竹内 審査官
要領2.(3) 利害関係者の除外	
<p>・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。</p> <p style="text-align: center;">利害関係 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>	
要領2.(4) 秘密保持の承諾	
<p>・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。</p> <p style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> 承諾 ・ 非承諾</p>	
<関係委員意見概要>	
クマタカについて	<ul style="list-style-type: none"> 急峻な地形における定点調査では、視野範囲が狭いことがあるため、定点配置は重要であり、定点配置をどれだけ密に組んでいるかはデータの信頼性を保証するところである。 風車設置位置の周辺に密な飛翔があり、古巣の周辺で飛翔がないなかで、営巣が確認されていないために古巣を中心に行動圏の内部構造の解析を行うというのは、誤った評価に繋がる可能性がある。このため、営巣地の特定に努める必要がある。 準備書において営巣中心域や高利用域といった内部構造のデータが示されていない。ペアごとに行動圏の内部構造の解析を行い、その結果を踏まえて風車の配置等を検討する必要がある。 予測においてペアが不明な飛翔の取り扱い方により、評価及び環境保全措置の検討の内容が変わってくる。このため、可能な限りペアを特定する必要がある。 年間予測衝突数の高いところに配置される風車については、配置の変更を検討した方がよい。